

1. 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたをご存知です。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」(21:15)
  - a. 弟子たちは一日の仕事を終え、一匹の魚も捕れず帰ろうとしていた。そこへイエスが現れ魚を捕るようにおっしゃって、捕れた魚で朝食を共にされた。
  - b. 食事の後でイエスはペテロ（ペテロではなくシモンと呼ばれていることに注目）に、「あなたはこの人たち（注：英語では“these”）以上に、わたしを愛しますか」と質問された。これは「他の弟子たち」と考えることもできるし、昔のライフスタイル、つまり「漁師の仕事よりも」、と考えることもできる。
  - c. ペテロは断定的な言い方で、（アガペーの愛ではなくフィレオの愛で）愛します、と答えた。イエスはペテロに、ご自身の子羊を飼うように命じられる。
2. イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたをご存知です。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」(21:16)
  - a. イエスはペテロにもう一度チャンスを与えようとしたのかもしれない。フィレオの愛でなくアガペーの愛で愛するとの返事を期待して、ペテロに再び（アガペーの愛で）愛しますか、と聞かれた。
  - b. ここではイエスは他者との比較をやめて、単純に（アガペーの愛で）愛しますか、とペテロに聞いている。アガペーとはギリシャ語で完全に相手に託す自己犠牲的な愛、それに対してフィレオは兄弟的な愛である。
  - c. ペテロは再びフィレオの愛でイエスを愛します、と答える。イエスはペテロに、ご自身の子羊を飼うだけでなく羊を牧しなさい、とお命じになる。
  - d. ペテロがイエスにアガペーの愛を返すことができないのは興味深い。クリスチャンの中にも同じようなチャレンジを受ける人がいるかもしれない。イエスを愛してはいるが、この世の何よりも愛しているといえるほど完全にイエスにコミットしているだろうか？それよりも少ない愛だろうか？
3. イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいっさいのことをご存知です。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」(21:17)
  - a. 三度目にイエスがペテロにわたしを愛しますか、と聞かれる時にはフィレオを使い、ペテロの愛のレベルに落として質問される。
  - b. ペテロがイエスを否定した回数と同じく、イエスがペテロに三度も質問されたのでペテロは心を痛めた。あるいはイエスはフィレオという言葉も組み合わせると合計三度聞かれたので心を痛めたのかもしれない。
  - c. 三度目にはイエスはペテロにご自身の子羊を飼うようにお命じになる。
  - d. イエスがペテロを悲しみに追いやられたのは興味深い。クリスチャンの中には神と共に歩むことは楽しいことばかりだと思っている人もいるが、神が私たちを取り戻そうとされる時は特に、痛みや悲しみは大切な要素である。
4. まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現すかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」(21:18-19)
  - a. さらにイエスは、ペテロが文字通りイエスに命をささげることになることを予告する。
  - b. これは悲惨な死に方のように聞こえるが、聖書はこのように最期は神に栄光を現すといっている。
  - c. ペテロにどのような死に方をするかという預言をされてからイエスは、「わたしに従いなさい」と言われた。これはイエスの人生、死、復活にまでついて行く、という意味であろう。